

ID No.	2058
研究課題名	アンジオクラインシステムによる造血幹細胞の生着制御機構の解明
研究代表者	服部 浩一 (順天堂大学・特任先任准教授)
研究組織	
受入教員	高橋 聡 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究分担者	Heissig Beate (順天堂大学・特任准教授)
研究報告書	
<p>今年度、代表者らは、胸腺中の血管内皮から分泌されるepidermal growth factor like-domain 7(Egfl7)が、Flt3/Flt3 ligandシグナルの活性化を通じて、T細胞の成熟・分化、増殖を制御し、炎症惹起に伴う免疫系細胞の動態に直接的に関与していることを明らかにした。加えて代表者らは、多発性骨髄腫の疾患動物モデルの解析により、アンジオクライン因子群による造血系細胞、腫瘍細胞の増殖、そして異常血管新生が、tPAとその受容体の一つであるlow density lipoprotein related protein-1(LRP1)シグナルにより上方制御されていることを論文報告した。</p> <p>これらの研究成果は、いずれも造血幹細胞移植後のアンジオクライン因子群、血管ニッチの構成分子が、造血系、免疫系細胞の生着、そして増殖によって造血器を再構築の制御機構、そして異常血管新生を伴う血液腫瘍性疾患病態の一端を解明してきており、これらは既に一部、移植生着促進療法、さらには、抗がん剤併用血管新生阻害療法の開発基盤となることを示唆した。代表者らは、現在、こうした動物実験で得られたデータを確認すべく、臨床応用に向けた患者検体の解析と各科と連携したトランスレーショナルリサーチの準備に着手している。</p>	